

ニコニコ技術部

Nico-TECH:

Technology, **E**ntertainment, **C**reative and **H**appy

ニコニコ技術部とは？



視聴者がこのように画面上にコメントを流すことができる動画サイト

ニコニコ動画

というサイトがあります

**動画につけられる
「ニコニコ技術部」タグ
その動画の集まり**

4

そこには、「タグ」とよばれる
視聴者が共同でラベル付けするシステムがあります。

そこで「ニコニコ技術部」とつけられた作品や人が
ニコニコ技術部として認識されています。

ことのはじまり

5

では、その「ニコニコ技術部」タグはどのように
まれたのでしょうか？

ことのはじまりは、今からちょうど3年前です。

動画

ネギ振り動画解説

6

ある時ブリーチというアニメの1シーンに
レーベンポルカという曲をつけて
それが、みんなのツボにはまり大ヒットしてしまし
た。

それと、同時期に現れた、歌う音源ソフト、初音ミ
クブーム。

その二つはすぐに融合し、このような作品がつくら
れました。

それを見て、実際に動かしてみた人たちがあらわれ
たのでした。

それが事のはじまり、ネタを工作で実現する人たち
に、いつしか「ニコニコ技術部」のタグがつけら
れ、そのタグがいつしか、そういった人を逆に呼び
寄せて行く要になりました。

図;ネタの連鎖の樹形図
ivan polca,breach,miku,
はちゅね
メトロノーム,時計
様々なねぎふり動画

サイズがはいらなければスクロールで

7

先ほどの流れを図にするとこのようになります。

色々なネタを取り込んで新たな動画を作るというニコニコ動画の文化の中に、

ネタを元にして、工作物を作り、その動画を投稿するという新たな流れができました。

ネタのフリーライド 安心の鉄板ネタ

ネタの連鎖 切磋琢磨

8

では、なぜニコニコ技術部は、ネタに載って作品を作る事が多いのでしょうか？

主要な理由として
ネタのフリーライド・ネタの連鎖があげられます

技術を技術単体で見せても研究発表程度のおもしろさしかありません。ひらたく言って学会です。

そこに、すでにある鉄板ネタの文脈や見せ方に合わせる事で、一定のウケを狙えます。古い話になりますが、ある芸人が「どんだけえ〜」と叫ぶネタをやっていたとき、まねした人は多かったと思います。それに似たものがあります。

またネタの連鎖とは、例えばみんな電気モーター一つかって葱を振っているなら、あえて俺は電気を使わないぜといった、色んな方向で切磋琢磨できます。その切磋琢磨する相手がすぐに見つかるのは技術・工作系の人にとっては貴重な体験です。

最近は協力の傾向も・・・

9

とはいえ、

いつも、競いあっているわけではありません。

協力しあってみんなで作り上げる事もしています

**あの楽器
空飛ぶパンツ
SOMESATの動画をくつつける**

10

オープニングでご覧にいれました、あの楽器と呼ばれる一連の作品は、当初一つの音楽PVを元ネタに各自が作っていましたが、

最近はいニシャルコストが非常に高いタッチパネル部分を共同開発しようという動きがあります。

また、あるアニメ作品で有名になった空飛ぶパンツが群れて飛ぶ姿を、実体化しようという試みは、キットを製品化してみんなで飛ばすという「空フェス」というイベントに発展しました。

さらに最近では、衛星を打ち上げて、宇宙でネギ振りをやろうという大所帯のチームも居ます。

ネットだけでなく
イベントも

写真NT*/Make

11

また、動画だけではなく

実際に展示会のようなイベントも行っています。

これには、ニコニコ技術部有志の「勉強会」と通称する展示イベントがあったり、

オライリーさんや東京工業大学さんの主催する展示イベントに集団で参加するといったものもあります。

特に近年は、どのイベントも参加人数が開催するごとに観客が増えてきており、盛り上がりを見せています。

ニコ技の参加者傾向 表

12

最後に、

ニコニコ技術部の参加者の分布を説明して説明を終えたいとおもいます。

この表から一目瞭然のように、技術系社会人がもつとも多くなっています。

ちなみに日本の同年代のおおよその技術・専門職比率は15パーセント程度です。

学生については統計をとってないので不明ですが、合ってみた印象としては理系がおおそうな感じでした。

このように本業がホンキで悪ふざけする事が多いニコニコ技術部。その今後を今回は研究やコミュニティを産業に結びつけるDCExpoという事で、事業等の社会との結びつきに注目して、有名作者をお招きしてお話したいとおもいます。

登壇者紹介

尻P (野尻包介)
tap()
hem()

13

それでは、まず本日の登壇者のご紹介をしたいと思います。
もいます。